

西日本3歩行記録

歩行区間:山口県下関駅~山口県東萩駅

日時:2010年10月8~11日

リーダー:友野晴夫(20期)

メンバー:生和光朗(21期)、生和多恵子(21期)、友野恵美子 以上4名

コース(約105Km):

10月8日 下関駅→梅ヶ峠駅(22km)、天気:雨のち曇り、宿泊(安岡駅・若福旅館)

歩行者:友野晴夫

10月9日 梅ヶ峠駅→阿川駅(30km)、天気:曇りのち晴れ、宿泊(滝部駅・滝部温泉)

歩行者:友野晴夫

10月10日

A班 阿川駅→黄波戸駅(19km)、天気:晴れ、宿泊(長門駅・長門ステーションホテル)

歩行者:友野晴夫、友野恵美子

B班 三見駅→黄波戸駅(19km)、天気:晴れ黄波戸駅・YUIの家、)

歩行者:生和光朗、生和多恵子

10月11日 三見駅→東萩駅(14km)、天気:晴れ

歩行者:生和光朗、生和多恵子、友野晴夫、友野恵美子、



記録:

10月8日 下関駅→梅ヶ峠駅、天気:雨のち曇り

6時40分羽田発のANA691便(事前予約で21960円)で宇部空港に行く。飛行機内はすいている。8時20分宇部着。ここから連絡バス(1400円)で下関駅へ行く、9時55分着。

10時10分、下関駅構内で写真をとって出発する。



小雨なので傘をさせば歩くには支障がない。下関駅付近の市場の通りを経由して、観光がてらに歩く。途中、高杉晋作終焉の地などの史跡を見る

10時50分、桜山神社は長州の著名な方たちの石碑があった。



小1時間、下関観光をして、本格的に国道を歩く、すぐにお昼時となったので、国道にあった回転ずしで昼食。フグもヒラメも全部100円であった。

12時20分、綾羅木駅を通過する。この辺はまだ下関市内で車の交通が激しいが、すべて歩道があるので、楽に歩ける。一人なのでマイペースで歩く。途中コンビニでアイスクリームを食べる。

13時20分、安岡駅では、今日泊まる予定の若福旅館の場所を確認する。その旅館は安岡海水浴場に面した海の家風の旅館だった。



目の前の砂浜が、東京では見られないくらいきれいだ。途中、海岸通りの国道では風雨が強く、持ってきた100円ショップの折りたたみ傘はだいぶ破壊されてしまった。

14時20分、吉見駅の待合所で休憩。ゴミ箱に骨の折れかかったビニール傘があったので、自分の破壊された傘と交換した。駅前のコンビニで、メンチカツなどをかって歩きながら食べた。梅が峠駅までは少々登りであるが、ぶらぶら歩くうちに到着した。



15時20分、梅が峠駅。15時を過ぎたので、今日の歩行を終了し、電車で2駅戻り、今日の宿、若福旅館(2食付き6000円)に入った。

16時10分、旅館は民宿風で、風呂は大きく、今日の泊まり客は私、一人であった。夕食はなんと、フグ刺しが皿で出てきて、尾頭付き(焼き魚、煮魚、刺身...)、自家製ハンバーグと、食べきれないほどのご馳走であった。満足の初日であった。



10月9日 梅ヶ峠駅→阿川駅、天気:曇りのち晴れ

5時20分、朝飯。朝飯はでっかいお吸い物にタイ一匹が入っていて感激。美味しく頂きました。5時55分、安岡駅発、6時10分、梅ヶ峠駅着。

6時25分、早朝の梅ヶ峠駅から歩きだす。今日は峠からの緩い下り道なので、朝の開始歩きとしては歩きやすい。途中で地元の方とすれ違つと「おはようございます」挨拶をしてくれた。



この付近の良い習慣のようだ。東京では知らない人とすれ違つても挨拶などあり得ない。この日の朝だけで延べ30人ぐらいと挨拶を交わした。こちらからも挨拶をするように努めた。中学生も高校生も挨拶をしてくれた。これだけの体験だけでも、山陰へ来たかいがあつたと思った。

8時、川棚温泉駅。きれいで広い、お土産店のある駅の待合室で休憩する。



この付近は山陰線沿いに歩くと、次々ときれいな海が見える。海の透明度、砂浜のきれいさは抜群だ。朝小雨が少し降つたが、段々と天気良くなつてきた。



10 時、湯玉駅。海辺の町。防波堤にすわって、海をみながら休む。風もなく穏やかで、贅沢な一人旅を満喫する。途中から海と別れて、内陸に入る。滝部まではやや単調な登り気味の道が続いた。途中から日がさして暑くなってきたので、上着を脱ぎ、Tシャツで歩いた。

12 時 50 分、滝部駅に到着。近くのスーパーマーケットの横にある駅食堂で、親子丼を食べる。なんとなく気分が良くなってきたので、缶ビールを飲み、しばしボーッと休憩する。暖かなお昼時をベンチで休む。ほろ酔い気分ですっきりと歩きだす。この付近は風力発電が盛んで、あちこちの山に風力発電機の塔を見かける。観光施設もあった。

14 時、特牛(こつとい)駅につく。



無人駅で誰もいない。ひっそりとしたローカル線の駅舎で休む。心が落ち着くひと時である。特牛からは国道ではない山陰線の農道に行く。かなり野蛮な道で、車がやっと通れる道だった。阿川駅に近づくと、道路にカニが現れ、びっくりした。

15 時 20 分、阿川駅に到着する。駅前の酒屋で缶ビールを買い、ホームで飲む。今日は 40000 歩以上もあるいた。充実した 1 日であった。

16 時阿川駅発の電車で、16 時 30 分に滝部駅に戻り、予約しておいた滝部温泉に着き風呂に入る。17 時ごろに後発隊(生和夫妻と私の妻)が、生和のレンタカーで到着し、部屋で合流する。ここは大きな温泉旅館(2食付き 9000 円)で、宴会場の様な座敷で、皆で宴会の夕食をとり、明日の計画を練った。



10月10日・A班 阿川駅→黄波戸駅、天気:晴れ

7 時 15 分、旅館のおいしい朝食をとる。

7 時 40 分、旅館の前で記念写真を撮って、車で出発する。

8 時 15 分、阿川駅で生和の車と別れて、我々夫婦で歩き始める。すぐに海岸の公園の遊歩道となり、景色が美しい。少し山沿いのところは国道を離れた旧道と思われる細道を山をトラバース気味に歩くことになる。

少し遠回りをしたようだが、結構、景色はよかった。山陰の海の景色を満喫した。



9時45分、長門栗野駅で休憩。ここは入江の小さな漁港であり、イカを干した風情が楽しめる。日本の原風景(?)と言う感じで、たんとも長閑で楽しいウォークである。しばらく海が見えたり見えなかったりではあるが、道は平らで歩きやすく、気持ちが良い。



11時、伊上駅で休憩。山陰の駅は、ほとんどが無人駅なので、駅のベンチがちょうどよい休み場所である。途中、旧道を見つけて長閑な田んぼの中を歩く。家や街並みは、山陰ならではの風景で、東京付近とは違う。12時20分、人丸駅に到着。駅から国道に行き、すぐ右の定食堂で私は焼き魚定食、妻はイカフライ定食を食う。ビールを飲む。

14時40分、古市駅に到着。



コンビニの横に座って、夫婦仲良くアイスクリームを食う。海から内陸に入って、峠を登る。この峠は山陰線はトンネルになっているところだ。峠を越えると長門湾の海に面した黄波戸に下る。

16時、黄波戸駅に到着。先に駅に着いていた生和の奥さんが迎えに来てくれた、夫はまだ歩行中だと言う。

車で我々の宿(長門駅)に送ってもらい、途中、生和(夫)とのすれ違い地点で皆で記念写真を撮った。



16時40分、生和の奥さんに車で、今日予約のビジネスホテル(ツインで7300円、格安!)に送ってもらい到着する。

夜は4人で仙崎港のお店に集まり、山陰の海の幸(フグ、イカの生き作り、クジラ…)を堪能しました。

10月10日・B班 三見駅→黄波戸駅、天気:晴れ

9時27分

三見駅は、南側に駅舎があり、駅前に懐かしい赤い円柱状のポストがあるかわいらしい、無人駅である。駅前には車を止められるスペースがあるものの、閑散としている。道は駅の左(西)から来て、駅前で曲がり、まっすぐ前に延びている。おそらく、これが県道64号線である。駅前を大きく右に曲がる道を辿っていくと十字路になり、左、遙か前方に大きな交差点が見える。これは、きっとバイパス。前方は山道に入り、山陰本線から離れて行く。すると、64号線はどこだろうと、早々に分からなくなる。今回の主旨に則り、山陰本線に近づく右へ道を取る。すぐに踏み切りになり、道は右に向かい、逆方向に向かう。



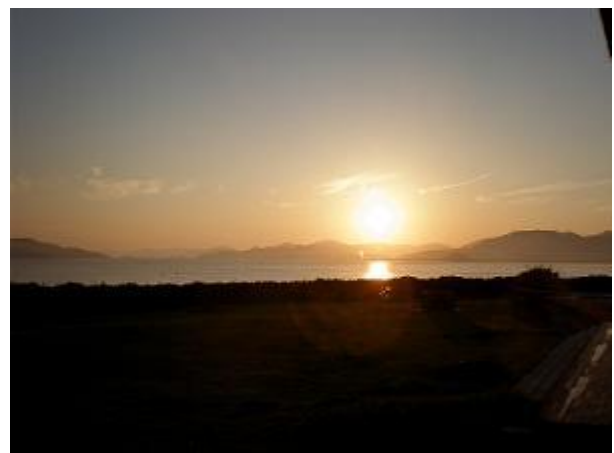
9時59分早々に迷子! 線路沿いにお墓があり、道が着いているので、線路に沿って進むと、本線はトンネルになり、道は海岸に続く遊歩道になる。しばらく行くと小学生以下は危ないので入ってはいけませんと書かれた、海岸に突き出た岩の登りとなり、崖を乗り越す。すると遊歩道はなくなり、日本海の海岸となる。しばらく海岸線を歩けそうなので、快適な砂浜歩きとなる。100mほど進むと、左に道路が下りてくる。砂浜が岩に遮られたところに踏み跡があり、上ると、山陰本線があった。そして、その先に道がある。山陰本線はディーゼルなので、電線も電柱もなく、どこを走っているか非常に分かりにくい。線路を渡って、県道64号線に出る。多分、64号線はトンネルの上を通り、降りてきたのだろう。その後道はどんどん登りになり、海も見えなくなる。



10時48分 もうそろそろ山陰本線の飯井駅と思われるが、駅の標識はないし、遠路も見えない。ところどころに山の間には191号線が見える。道沿いで栗拾いをしながら一休み。大収穫。

11時13分 少し、下ると三隅の標識があった。結局、飯井駅はどこにあるかわからなかった。また、海が見えるところに出ると、小さな港が道から見える。そこに、監視カメラとおぼしき物があった。そうか、このあたりは、北朝鮮からの密航者が来るのかもしれない。道は海をはずれ、くだりとなる。さすがに萩の花がきれい。山は、枇杷の木がずいぶんある。くだり終わった辺りで、黄色くいろづいた穂を収穫をしている田んぼの人に挨拶をしながら歩く。道は完全に平らになり、遠くに神社の八代が見える、三隅八幡宮である。この辺りから民家が出てくる。地図を見ると市役所もあるが、三隅駅はまだ先である。八幡宮の門前町として形成されて町に後から、山陰本線が通るのに、町の中を通しては困るという、地方都市の典型的な町である。

12時56分 八幡宮の参道に雑貨屋が一件あった。おばあさんが二人、座り込んで話をしている。三見駅を出てから店は全く無く、すでに昼食時であり、せめて、カップラーメンがないかと聞いたところ、食べ物は無いとつれない返事。役場の前にもう一件お店があり、やっとカップラーメンとパンを買うことができた。店のおばあさんの話では、時々、萩まで歩く人がこの道を通るとのこと。昔は、店の前の道しかなく、この狭い道をバスが取っていたとのこと。その後、バイパスができ、さらに、山の中を自動車専用道路が走るようになった。そんなに道路を作ってどうなるのだろう。昔は、車のお客さんも来たのにと話していました。歩く人にとっては、脇を自動車が行かれることもないし、お店ではない沿線の人にとっても、自然破壊と経済性を度外視すれば、生活道路とそこに入る道路、防音壁、トンネルで隔離されて町からはほとんど見えない町を通り過ぎる3本立ては理想に思うのですが。



店で買ったカップラーメンとパンで川原にて、遅い昼食となりました。

13時44分 三隅駅着。駅前には食事ができる店も、普通の店もない。やはり日本でも非常食は必要かも。三隅駅から先は、先崎を海の向こうに望み久振りの海岸沿いの道です。やっと出てきた、海岸沿いのプレハブのうどん屋で午後のアイスコーヒー。先崎を望みよい景色。自動車専用道路と合わさると道は片側3車

線のすばらしい道となり、15時28分 長門市駅を通過。しかし、この広い道には、長門市駅の標識はない。山陰本線はかなり、無視されている？ 県道はずれて海岸沿いの遊歩道を歩く快適。県道と分かれて黄波戸駅に向かう。

16時30分黄波戸駅到着。

10月11日 三見駅→東萩駅、天気：晴れ

7時起床、7時20分に朝食(ほかほか弁当を買う)、7時54分、長門駅発の電車で、8時10分に三見駅に着く。昨晚、別の宿で泊まった生和夫妻(レンタカー)と三見駅で集合。生和夫妻は東萩駅に車を置きに行く。



8時20分、三見駅を我々夫婦2人で歩き始める。海から離れる様に、やや登り気味の道を行く。車は全く通らない道。家も畑もなくなり、やがて峠を越えると、向こう側の海が見える。若干の人家があるが、人気や車がない静寂なウォーキング。



再び海岸に到着して、海岸べりに座り込んで休憩する。置きに転々と小島が浮かぶ風景だ。山陰の海岸を十分に満喫できる遊歩道だ。少し歩くと、生和夫婦がタクシーで反対側から来る。玉江駅まで電車で戻り、駅からタクシーで合流してくれた。ここからは4人で歩く。途中はきれいな砂浜を歩くところもあり、終始きれいな海を歩ける。小さな岬を左に行くと、玉江駅の人家に入る。



10時、玉江駅付近を通過し、駅には行かず、港の入り江の橋を渡って、萩の町に入る。すぐに白壁の通りを歩く道となり、萩の街並みらしくなる。



萩焼のお店があったので、焼き物を見て、手ごろな値段の茶碗を購入すると、お店の人が美味しい夏ミカンのお茶？ジュースをご馳走してくれた。のどを潤して、お店を出発。もう1軒の萩焼の店を見学し、萩観光の中心部に入る。高杉晋作の生家の前で記念写真を撮る。



町では「萩焼祭り」をやっている、どこも賑わっていた。東側の橋を渡って、今回の終着地点である東萩の駅に着く。

12時、東萩駅に到着。駅近くの魚介類の美味しい店で昼食をとり、駅で生和夫婦と別れる。生和夫婦はもう1泊して観光する予定である。我々はお土産を買ってバスで帰路に着く。



13時35分、東萩駅発の連絡バスに乗り、15時6分に新山口駅に着く。新幹線で新横浜駅に19時ごろ着き、家に帰る。

とても楽しい山陰の旅でした。

以上